

## Contents

### News

2010年度 多摩大学入学式 開催 P.02

平成21年度  
学校法人田村学園概要 P.03

特集

多摩学の発見 P.04

—多摩大鳥瞰図絵の試み

2010年度多摩大学ゼミナール  
地域プロジェクト一覧 P.06

多摩学  
鬼太郎茶屋 (調布市) P.08

## News

## 2010年度 多摩大学入学式 開催

4月9日（金）10時からパルテノン多摩で平成22年度入学式が行われました。今年の新入生は経営情報学部385名、グローバルスタディーズ学部129名。寺島実郎学長は「大学4年間は、学ぶことができるチャンスを与えられた途方もなく貴重な時間。学園生活を充実したものにしてほしい」と祝辞を述べました。経営情報学部の小沼俊さんとグローバルスタディーズ学部の岩淵玲奈さんは新入生代表として将来の夢を語り、田村嘉浩常務理事は「『楽学』一学ぶことを心の底から楽しんでほしい」と挨拶しました。



期待と夢を胸に入学式を迎えた新入生たち

Depaul 大学の教授と学生が  
湘南キャンパスを訪問

3月20日（土）10時～14時30分、多摩大学湘南キャンパスにアメリカシカゴ市のデポール大学から学部生7名と大学院生13名、教授2名が来訪。10日間の海外研修第一日目としての訪問でした。SGSからは15名の学生が参加して駅や街頭での誘導、キャンパスツアーなどを行い、同世代の学生たちと積極的に触れ合い、会話を楽しみました。また茶道部の学生は和服姿でお茶会を開催するなど国際交流も体験。ラレア教授は参加者を前に国際ビジネスについて90分の講義を行いました。



デポール大学の学生たちと交流をたのしむ

多摩大学湘南キャンパスで  
『高大連携』を締結、調印式

多摩大学湘南キャンパス（グローバルスタディーズ学部）では、3月30日（火）に神奈川県立藤沢西高等学校と「高大連携」を締結、調印式を行いました。今年1月には同県立湘南台高等学校（藤沢市）と同県立藤沢清流高等学校（藤沢市、2010年4月開校）と「高大連携」を締結、今回は3校目の締結となりました。大学と高校が協力し刺激し合う教育の場を造り、生徒の視野を広げ学習意欲を高めることが目的。英語に特化した本学部の特徴を活かして、英語教育を積極的にサポートしていきたいと考えています。



藤沢西高校と多摩大学が「高大連携」調印式

2011年度入学試験・  
教育内容説明会開催

6月3日（木）13時30分～17時30分、多摩大学多摩キャンパスにて、「教員対象2011年度入学試験・教育内容説明会」が開催されました。グローバルスタディーズ学部の教育内容や特徴などについて同学部長の松林正一郎教授、経営情報学部については同学部長の諸橋正幸教授が説明しました。アドミッション委員長の齋藤T.裕美教授による入試概要の説明後、寺島実郎学長が挨拶。教員の方々には14時40分からのリレー講座にもご参加いただき、さらにキャンパス見学や個別相談会などを通して多摩大学を紹介しました。



経営情報学部の特徴を説明する諸橋学部長

就活ひざづめフォーラム  
in 多摩大学 開催

「就活ひざづめフォーラム in 多摩大学」の第1回目（全6回）が、5月19日（水）9時半から16時半まで多摩キャンパス221教室で開催されました。昨年からの超就職氷河期といわれる状況の中、就活相談にとことん乗る「完全就活支援学内合同企業説明会」で、参加企業は10社。学生の側から企業を真剣に見極めて面接を受けたい企業を選べる「ドラフトカード制」や企業側も面接をしたい学生を指名できる「会場内指名制」を導入しました。緊張感にあふれた話し合いがひざづめで行われました。



気を引き締めて企業との面接に臨む学生たち

多摩大学大学院同窓会  
平成22年度定期総会と交流会開催

3月6日（土）15時～19時30分、多摩大学品川キャンパスにて「多摩大学大学院同窓会定期総会・交流会」が開催されました。定期総会では平成21年度活動報告、会計報告、監査報告が行われ、平成22年度活動計画、予算案、役員及び監事の選任、同窓会会則の変更などについて決議されました。その後、休憩を挟んで交流会第一部として、日下公人名誉教授による記念講演が行われました。第二部の懇親会では寺島実郎学長も懇親の輪に加わり、大学院同窓会の今後の展開に向けて充実した会となりました。



日下公人名誉教授による記念講演のようす

## 平成 21 年度 学校法人田村学園概要

多摩大学の経営母体である学校法人田村学園は、私立学校として積極的に情報開示をしております。最新の田村学園概要は、以下のとおりです。

〔学校法人 田村学園 貸借対照表〕

### 貸借対照表

平成 22 年 3 月 31 日 (平成 21 年度)

(単位 百万円)

資産の部	本年度末	前年度末	増 減
科 目			
固定資産	22,364	22,516	△ 152
有形固定資産	20,998	21,233	△ 235
土地	11,992	11,992	0
建物	7,775	8,044	△ 269
その他	1,231	1,197	34
その他の固定資産	1,366	1,283	83
借地権	4	4	0
第 2 号基本引当資産	1,100	1,000	100
その他	262	279	△ 17
流動資産	2,594	2,424	170
現金預金	1,536	1,457	79
その他	1,058	967	91
資産の部合計	24,958	24,940	18
負債の部			
科 目			
固定負債	320	300	20
長期借入金	2	2	0
退職給与引当金	317	298	19
長期未払金	1	0	1
流動負債	1,019	1,130	△ 111
短期借入金	1	1	0
前受金	684	713	△ 29
その他	334	416	△ 82
負債の部合計	1,339	1,430	△ 91
基本金の部			
科 目			
第 1 号 基本金	28,760	28,553	207
第 2 号 基本金	1,100	1,000	100
第 3 号 基本金	92	92	0
第 4 号 基本金	397	397	0
基本金の部合計	30,349	30,042	307
消費収支差額の部			
科 目			
消費支出準備金	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	△ 6,730	△ 6,532	△ 198
消費収支差額の部合計	△ 6,730	△ 6,532	△ 198
科 目			
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額	24,958	24,940	18

〔平成 21 年度 計算書類多摩大学分 抜粋〕

〔資金収支内訳表〕

(資金収入)	(単位：百万円)
学生生徒等納付金収入	1,958
手数料収入	33
寄付金収入	67
補助金収入	315
資産運用収入	9
事業収入	285
雑収入	38
合計	2,705

〔消費収支内訳表〕

(消費収入)	(単位：百万円)
学生生徒等納付金	1,958
手数料	33
寄付金	67
補助金	315
資産運用収入	9
事業収入	285
雑収入	38
帰属収入合計	2,705
基本金組入額	△ 110
合計	2,595

〔資金支出〕

人件費支出	1,438
教育研究経費支出	695
管理経費支出	465
借入金等利息支出	0
施設関係支出	41
設備関係支出	17
合計	2,656

〔消費支出〕

人件費	1,455
教育研究経費	920
管理経費	480
その他	12
合計	2,867

・学生・生徒等 (人)

田村学園全体	4,801
多摩大学 学部	
経営情報学部	1,458
グローバルスタディーズ学部	495
多摩大学 大学院	103
高校 (2)・中学 (2)・幼稚園 (3)	2,745

・キャンパス面積 (㎡)

田村学園全体	115,980
多摩大学	44,914
その他	71,066

以上、平成 22 年 5 月 1 日 現在

## 寺島実郎監修リレー講座 現代世界解析講座Ⅲ 春学期講座開始

[http://www.tama.ac.jp/info/lecture\\_relay2010.html](http://www.tama.ac.jp/info/lecture_relay2010.html)

『多摩大学 寺島実郎監修リレー講座 現代世界解析講座Ⅲ』春学期が 4 月 22 日より開講した。3 年目となる今年のタイトルは「いま、広く深く世界を知る力」。多摩キャンパス 001 教室にて、一般受講生 300 名と多摩大生 250 名が、7 月 15 日まで計 12 回の講義を受講する。寺島実郎学長による第 1 回講座「2010 年の意味—世界の構造転換とは何か?」では、世界情勢を示す最新の数字をもとに世界経済の構造変化について講義が行われた。

第 2 回「政治家のリーダーシップと戦略的思考—歴史の教訓から—」山内昌之、第 3 回「上海万博と中国経済の行方」沈才彬、第 4 回「北東アジアを知る事とは」金美徳、第 5 回「試練を迎えるオバマ外交と日米関係の行方」渡部恒雄、第 6 回「ユーラシアダイナミズムと日本の立ち位置」寺島実郎、第 7 回「いまなぜ『アジア太平洋』か—立命館アジア太平洋大

学の創設をとおして考えたこと」坂本和一、第 8 回「市民が変える現代社会」目加田説子、第 9 回「起死回生—時代を生きぬく経済力」江上剛、第 10 回「情報を測る単位—bit とは—」宮原秀夫、第 11 回「反グローバルイズム—金融資本主義を超えて」金子勝、第 12 回「日本創生への構想」寺島実郎。

(敬称略)



# 多摩学の発見

## 多摩大鳥瞰図絵の試み

久恒 啓一

多摩大学経営情報学部教授・学長室長

江戸時代に鳥瞰図絵師という職業があった。風景をまるで鳥になって上空から見下ろすように描くことができる絵描きである。この手法は屏風に描かれた絵巻物を源流としており、全国の名所をこの手法を使って描いた浮世絵は今も多くの人を魅了している。山や川、都市の建物など並んでいる順序は正しいのだが、一枚におさめるためにゆがんでいることもこの手法の特徴のひとつだ。この図絵は全体を俯瞰しており、位置関係が一望できるので人気があった。

大正時代にこの手法を発展させた吉田初三郎という鳥瞰図絵師がいて、全国の景勝地を描き、鉄道の建設で始まった観光ブームに火をつけた。「大正の広重」と称したこの人の展覧会を見たが、錦絵のような鮮やかな色彩と、富士山や見えるはずのないアメリカや樺太を描くなどの大胆なデフォルメという手法を駆使しているため、世界や日本の中での景勝地の位置がよく理解できた感じになった。この絵描きは見えるはずのない高みに視点を定め、風景を切り取る作業をしたわけだが、どうしてそういうことができたのだろうかと思議な気持ちで



感動に浸ったことがある。

必要があって「多摩」の鳥瞰図絵をつくることになった。関係者が集まって、最初の絵図案をもとにアイデアを出し合ったが、それは笑いの多い、わくわくするような時間だった。多摩大鳥瞰図絵の試作版を載せておくので参考にさせていただきたい。

多摩という地域はどこを指すのだろうか。諸説あるが、東西では東の東京世田谷あたりから西は富士山に迫るあたりまで、南北は秩父山系から南は東京湾、相模湾までの広大な地域、これを仮に「大多摩」と呼んでみようか。この地域は現在では、東西に中央自動車道、東名高速、中央線、京王線、小田急線、東海道新幹線などが通り、南北には多摩川と相模川が流れている。歴史的にも興味深い地域でもある。いたるところに散在する万葉集の歌碑群、東国から九州の警護に行かされた防人が通った多摩よこやまの道、「いざ鎌倉」の鎌倉街道、横浜と八王子を結んだ文明開化の「絹の道」、新選組から自由民権運動への流れ、昭和の開発を彩った多摩ニュータウン、……。



<http://www.tama.ac.jp/guide/birdeyes.html>

東京西部地区、23区以外を指す東京都下という「辺境の多摩」ではなく、日本と世界の中心に多摩があると考え、東京は出稼ぎに行く場所とみえる。空の羽田空港と海の横浜港から世界につながっている。沸騰する日本海の彼方に中国、韓国、北朝鮮、ロシアなどを擁するダイナミズムあふれるユーラシア大陸が視野に入る。

少なく見積もっても人口400万人以上、12万社以上の企業が存在するこの多摩を、地域性（ローカルリティ）と世界性（グローバルズム）を具備する地域としてとらえ直す「多摩グローカルリティ」という視点がこの鳥瞰図絵から浮かんでくる。

多摩を冠した唯一の大学として20年前にこの地に誕生した多摩大学は、「実学志向の大学」を標榜してきたが、「今を生きる時代についての認識を深め、課題解決能力を高めること」を実学と再定義している。その上で大学のアイデンティティの確立のためにも、「多摩学」という実学に地域とともに接近していきたい。

ここ数年で専任教員が担当するホームゼミ、外部専門家も加わるブ

プロジェクトゼミ、そして寺島実郎学長が直接指導するインターゼミ（社会工学研究会）など、様々な形のゼミが、多摩をフィールドに地域と協力しながら教育活動を活発に行う方向が明確にみえてきている。また教員にも本来の経営と情報に関する専門分野研究で培った視点で多摩をとらえ直す機運があり、教育と研究の一体的な連携へ向けてベクトルが合いつつある。

もともとこの地域には多様な形で存在する歴史と地理、文化と風俗、産業と社会などに関する研究者・実務家による膨大な研究と活動の蓄積がある。その上に更に地道に実績を積み重ねるならば、まだまだ茫漠としている「多摩学」のイメージも、しだいにその輪郭がみえてくるのではないだろうか。

産業界、自治体、学界等が鳥瞰的な視点をもって連携し、地域活性化を睨んだ実学としての「多摩学」の構築に向けて、力を合わせ相乗効果を高めていきたいものである。

## Seminar

## 2010年度 多摩大学ゼミナール

ゼミナール情報は多摩大HP<<http://www.tama.ac.jp/>>からアクセスできます。

多摩大学の取り組みとして象徴的なゼミは、徹底した問題発見・問題解決型の形式で「現代の志塾」を体現するものだ。準備段階として1年次から始まる「プレゼミ」、より専門的となる2年次からは「ホームゼミ」、「プロジェクトゼミ」(EXゼミナール)へと段階的に展開される。さらに昨年度からは、寺島実郎学長が直接指導する「インターゼミ」(社会工学研究会)も開始した。

## ○プレゼミナール

1年生を対象に行われるホームゼミへの準備プログラム。1クラスを3グループに分け各グループを3名の教員が担当する。各教員が4週間ずつリレー方式で受け持ち、計12週間で完結するカリキュラムになっている。ディスカッションやグループ活動などの授業形式を体験し、ゼミの基本構造に慣れることが目的だ。

## ○ホームゼミナール

2年次からスタートする専門ゼミ。学生がそれぞれ興味や関心のあるテーマを選択し、分野のエキスパートである教員の指導やサポートを受けながら、自主的に探求・研究していく。少人数グループでのディスカッションや発表を通してコミュニケーションとプレゼンテーションの能力を培い、社会で通用する実践力を身につけていく。

## ○プロジェクトゼミナール

多摩大学の教員や学外の研究者、経済界のキーパーソンが講師として参加。学問体系に縛られず、独自の視点やテーマを掲げて開講する問題解決型ゼミ。地域問題やマーケティングなど多様な問題に対し、ひとつのプロジェクトの中で総合的な問題解決能力を身につけていく。授業の中でビジネスを実感できるのも特長だ。

## ○インターゼミナール

寺島実郎学長自らが総括する「創造的問題解決力養成講座」のこと。授業は塾形式で進行し、学部や大学院、教員や学生の壁を超えて受講者全員で、現代社会が内包する課題の解決に向かって取り組む。本年度は、「ディズニー」「多摩学」「アジア：歴史・文化」「アジア：経済」「観光」「環境」の6テーマについて研究している。

## テーマ：多摩の地域ビジネス

## サンリオピューロランドの課題解決イベントの企画・運営

講師 松本 祐一 准教授

全天候型テーマパーク「サンリオピューロランド」は、キャラクターや質の高いパフォーマンスなどが人気で世界中から観光客が訪れる集客施設だが、課題も抱えている。ゼミではピューロランドの課題を発見し、解決するためのイベントを企画・運営する。授業にはサンリオピューロランドの社員も参加し、サンリオの企業理念や歴史、キャラクタービジネス、イベントの企画・運営などについてアドバイスをいただく。昨年度は12月にピューロランドの施設を使い、大学生を対象としたイベントを開催した。昨年は0を1にする作業、2年目となる今年は成果を引き継いで進化させ、さらに地域活性化を前面に出していく。春学期にイベントの企画書を作成し、秋学期には実施・運営を行い、報告書としてまとめ発表する。5月15日にピューロランドでフィールドワークを実施、6月27日のオープンキャンパスでは模擬授業を行う。皆で決めたゼミの今年の約束は、「ブ・チ・楽・感」(プロジェクトを達成する気持ちを大事に。チームワークを大事に。楽しんでやる。感謝と感動)。ゼミ生たちは新旧メンバーが融合し、反省点も踏まえて来年度につなげる意識を持って取り組んでいく。

## ゼミブログ

<http://www.tamauniv.net/10-tama-business3/>  
イベントの公式ページ  
<http://www.edu.tama.ac.jp/semi/santama2010/>



## プロフィール

多摩大学総合研究所准教授  
1972年生まれ  
専門は地域経営論

## テーマ：多摩の地域ビジネス

## 多摩大学版『多摩観光ガイドブック』をつくる!～多摩市のシティセールス

講師 中庭 光彦 准教授

多摩市に住んでいない人、住んでいても良さに気づいていない人に、多摩市の魅力を伝え、愛着を持ってもらうことがシティセールス。多摩市を知ってもらい売り出すための手段として、「多摩観光ガイドブック」という具体的なモノをつくる。若い人たちが自分たちの目線で、街のトータルプロモーション計画を立てるために観光ガイドブックをつくる。だれに読んでもらうのか、目的を考えることが計画につながる。どの場所を紙面で取り上げるのか、切り口は? 学生からみた多摩市の魅力をどのような表現で伝えるのか自分たちで決め、理由も意識することで人に説明できるようになる。このような観光プロモーションの手法は、ビジネスプランとしても実社会に出た時に役立つ。地域とは暮らしている人の集積、地域を見直すことで自分の住んでいる地域や行ったことのない地域にも宝があることがわかる。春学期は地域について学び魅力を伝えるための方法を議論、6月5日には多摩市内のフィールドワークを行った。秋学期は個々に取材を重ね、掲載記事を制作し「多摩観光ガイドブック」として完成させる。

## ゼミブログ

<http://www.tamauniv.net/10-tama-business1/>



## プロフィール

多摩大学総合研究所准教授  
ミツカン水の文化センター主任研究員  
1962年生まれ  
専門は地域政策分析と水文化論

## ○地域プロジェクト

多摩大学では、地域のひととともに地域の問題解決を図ることを目的として、昨年10月1日に「多摩大学地域活性化マネジメントセンター」を設立した。地域と大学が連携して継続的に活動していくことにより地域の問題を解決していく。地域プロジェクトはマネジメントセンターを中心に展開し、昨年度はホームゼミ、プロジェクトゼミ、インターゼミの3種類のゼミナー

ル形式の授業において11のプロジェクトが実施された。「プロジェクト型地域学習」は、調査分析レポートとしてまとめる「調査研究型」、目的達成のためにイベントを企画運営する「イベント運営型」、事業の立ち上げや運営支援を行う「事業運営型」に分類される。

今年度は15の地域プロジェクトが立ち上がり現在進行中である。

### 2010年度 地域プロジェクト一覧 (2010年5月末現在)

	テーマ	プロジェクト	担当者	パートナー・協力者
1	「湘南」モデル研究	調査研究型	望月照彦ホームゼミ	
2	猪苗代観光開発研究	調査研究型	浜田正幸ホームゼミ	猪苗代町
3	東京ヴェルディ地域活動支援	イベント運営型	久恒啓一ホームゼミ	東京ヴェルディ1969フットボールクラブ(株)
4	地域活動連携 SNS の構築	調査研究型	片桐徹也 EX ゼミ 「公民連携ビジネスプランニング」	諏訪小学校、多摩市
5	多摩市オーラルヒストリー研究	調査研究型	久恒啓一ホームゼミ	
6	多摩の手土産づくり支援	事業運営型	久恒啓一ホームゼミ	地元 NPO
7	多摩観光ガイドブック作成	調査研究型	中庭光彦 EX ゼミ 「多摩市のシティセールス」	多摩市
8	サンリオピューロランドの課題解決イベントの運営	イベント運営型	松本祐一 EX ゼミ 「集客施設のマーケティング」	サンリオピューロランド
9	多摩うどん支援	事業運営型	梅澤佳子ホームゼミ	社会福祉法人ときの会
10	諏訪名店街七夕祭り支援	イベント運営型	梅澤佳子ホームゼミ 片桐徹也 EX ゼミ	諏訪名店街
11	せいせき多摩川花火大会事業支援	イベント運営型	野田稔ホームゼミ プレゼミナール	多摩市、実行委員会
12	多摩学研究	調査研究型	寺島実郎インターゼミ 「多摩学チーム」	
13	多摩学研究「よこやまの道」	調査研究型	菅野光公ホームゼミ	大妻女子大(仮)
14	多摩地域企業雇用調査	調査研究型	志企業研究会	多摩信用金庫(予定)
15	学生と教員が考える地域活性化人材育成プログラム	調査研究型	地域活性化マネジメントセンター	内閣官房(予定)

多摩学  
001

## “多摩”人物紀行—— ①



「水木しげる先生ってどんな人？」左は水木しげるさんの等身大パネル。下は鬼太郎茶屋の外観。屋根の上には大きな下駄がある。2階は妖怪ギャラリー。企画展は年数回リニューアルされ、現在は「水木さんと調布展」開催中。1階は飲食コーナーとグッズ販売の妖怪ショップ「ゲゲゲの森」。



## 鬼太郎茶屋

東京都調布市深大寺元町5-12-8

☎ 042-482-4059 営 10:00 ~ 17:00

月曜定休 <http://www.youkai.co.jp/>

「調布駅」「つつじヶ丘駅」北口より京王バス〈深大寺行〉終点横 約10分

## 鬼太郎茶屋 (調布市)

久恒 啓一 (多摩大学経営情報学部教授)  
<http://www.hisatune.net/>

調布市の深大寺の門前に「鬼太郎茶屋」がある。その2階で「水木さんと調布展」という企画をやっていた。水木さんとは、もちろん1959年以来50年以上も調布市に住む妖怪漫画家の水木しげるさんである。「ゲゲゲの女房」の亭主と言った方がわかりがいかもしれない。水木さんは2008年3月には調布市の名誉市民になっている。この鬼太郎茶屋は2003年10月に開店した。参道の入口近くにあり、そば屋を改造した二階建てである。

2階に登る階段から妖怪だらけだ。水木しげるの発明したあらゆる妖怪が狭い空間にひしめいている。そしてうっそうと生い茂る緑の木々を堪能できる木製の「癒しのデッキ」でも、さまざまな資料を見ることができる。等身大の水木さんの写真が立っており、そこに出身地や身長、などさまざまなデータが記されている。その中に、「幸福の7カ条」があった。

「成功や栄誉や勝ち負けを目的に、ことを行っってはならない。」「しないようではいられないことをし続けなさい。」「他人との比較ではない、あくまで自分の楽しさを追及すべし。」「好きの力を信じる。」「才能と収入は別、努力は人を裏切ると心得よ。」「怠け者になりなさい。」「目に見えない世界を信じる。」

1階の妖怪ショップ「ゲゲゲの森」で「日本妖怪大全」「水木しげるワールドの妖怪たち」「水木さんの幸福論」を買う。また、水木さんの言葉を背中に書いたTシャツも購入する。「怠け者になりなさい」というTシャツが気に入ったが、サイズが小さ過ぎるのと大き過ぎるのとしかない。あまり勤勉にやっていると幸福になれないかも知れないと思ったのだが、ないからにはしょうがない。「のんびり暮らしなさい」の方を買う。私は怠け者になってはいけない、

と水木さんから言われたような気がした。

帰って、「水木さんの幸福論」(日本経済新聞社)を読んだ。日経新聞に連載した「私の履歴書」を中心に「水木さんの幸福論」と「わんぱく三兄弟、大いに語る」と「鬼太郎の誕生」という漫画が付いている。参考になったところを抜き出してみる。

「筋を考えるのが漫画家の生命線です、、、売れなかった時代でも、原稿料の大半は、漫画の筋を考えるのに役立つ本とか、妖怪の作画のための資料とかを買い込むのに使っていました。」

「妖怪をリアルに再現するためには、表情、動作、背景などを入念に描き込まないとイケない。資料を探し、文献を読み、想像力を働かせる必要もあって、総合力で作画に取り組まないとイケない、、、」

30年近く前、「知的生産の技術」研究会で「私の書斎活用術」(講談社)という本を出したことがある。私はこのプロジェクトの責任者でもあったが、16人の著名人の書斎を訪問してまとめた。このとき、調布市の水木さんの自宅を二度訪問している。確かお寺の墓場の隣に家があった。そのお墓をバックに楽しい話を聴かせてもらったが、その時「この人は本当は妖怪なのではないか」という疑問が頭をかすめたことを思い出す。

妖怪のたくさん入った引き出しをみせてもらった。新しい妖怪をつくるには、いくつかの妖怪を組み合わせるのだとの説明だった。また、廊下には南方から買ってきたお土産の妖怪達が並んでいて気持ちが悪かった。

その時、やはり「幸福」についての言及があった。天国はどこにあるのかという問題意識だった。そのときのテーマが「水木さんの幸福論」になったのだ。

## Information

多摩大学では、寺島実郎学長や学内の情報をメルマガで配信しています。配信をご希望の場合は以下のアドレスからお申し込みください。  
<http://www.tama.ac.jp/info/mm.html>



## Rapport

Number. 071

発行 多摩大学  
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1  
TEL:042-337-1111 FAX:042-337-7101  
編集・印刷 株式会社 インフォテック  
発行日 2010年6月30日

<http://www.tama.ac.jp/>